

今週のビルマのニュース
2009年7月24日【0929号】

中曽根外務大臣がニャンウィン外相と会談

・中曽根外務大臣は22日、訪問先のタイで軍政のニャンウィン外相と会談し、スーチー氏の裁判についてビルマが「適切に対応することを期待する」と述べた。また中曽根外務大臣は、軍政が来年の総選挙前に恩赦を行う準備をしていると軍政の国連大使が明らかにしたことについて「近く政治犯釈放の動きがあると聞いている」と述べたが、ニャンウィン外相は「一部の囚人の釈放について真剣に検討している」と述べるにとどまった（外務省発表会談概要）。

国営紙は「ミャンマーに政治囚は存在しない」

・政治囚の解放について、国営紙のニュー・ライト・オブ・ミャンマーは23日の社説で、「スーチー氏を含む政治囚を釈放せよ」という国民民主連盟（NLD）の要求はまったく不合理だ。政府はこれまで何度も、ミャンマーには政治囚は存在しないと述べてきた。（中略）スーチー氏も（その他の囚人と同様に）政治囚ではなく、現存の法律に違反したために裁判にかけられているのである」と述べた。

ASEAN外相会談～米国のビルマ政策見直し

・ASEANは20日、タイでの外相会議で、ビルマ軍政にアウンサンスーチー氏を含むすべての政治囚の即時釈放を求める共同声明を採択した。

・クリントン米 국무長官は21日、タイのコプサック副首相と記者会見を開いた。ビルマが北朝鮮と軍事面での協力を強めていることは「地域を不安定化させ、ビルマの近隣国に直接の脅威となりうる」とし、深刻に受け止めていると述べた（記者会見記録）。

・この記者会見でクリントン長官は、オバマ大統領が就任してから米国が始めたビルマ政策の見直しについて「アウンサンスーチー氏の裁判の結果が出るのを待っている状態だ」と述し、まだ完了していないことを明らかにした。またビルマが少数民族などに対する人権侵害をやめ、スーチー氏や政治囚を解放するなどの措置を取れば米国はビルマと「より生産的な関係を持つ用意がある」と述べた（同上）。

・米国代表団は22日夜に軍政代表団と会談し、北朝鮮に対する制裁決議を守るよう直接求めた。クリントン長官は出席しなかった（23日AFPほか）。

ビルマへの政府開発援助（ODA）約束状況など
新たな発表はなし。

貨物船カンナム号、軍政は行き先知っていた？

・軍政のニャンウィン外相は中曽根外相との会談の中で、北朝鮮について「国連安保理決議に従った対応をしていく」とし、ミサイル部品などを積んでビルマに向かっていた可能性のある北朝鮮の貨物船カンナム号については「どこに行くのか承知していなかった」と述べた。しかし米議会ではジョン・ケリー上院外交委員会委員長が22日、北朝鮮に対する国連安保理の制裁決議が有効だという趣旨の発言の中でカンナム号について「ビルマ政府自身も、安保理決議に従うため、入港の際には貨物検査が行われるという警告を出した」と述べ、カンナム号の行き先を軍政が知っていたことを示唆した（22日付VOA）。

スーチー氏裁判24日に最終弁論

・インsein刑務所の特別法廷で行われている民主化指導者アウンサンスーチー氏の裁判は24日に最終弁論があり、その後まもなく判決が出ると見られる。

イベント

・在日ビルマ人共同行動実行委員会 国連事務総長に対しスーチーさんを含むすべての政治囚の釈放と対話の促進を軍政に働きかけるよう要請するアピール行動（国連大学前、21~24日 15~16時）

・“難民と一緒に暮らせる日本に！”ビルマの現状と少数民族ロヒンギャ難民 講師：根本敬（上智大学外国語学部教授）主催：人権・正義と平和連帯フォーラム、アムネスティ福岡グループ（福岡市立青年センター5F、28日 13時半～）

・日本ビルマ救援センター特別講演会「アウンサンスーチーの「非暴力主義」とタイ国境で戦う民主化闘士たちの解釈」講師：根本敬（阪南大学サテライト中小企業ベンチャーセンター、8月3日 19時～）

もっと詳しい情報は

きょうのビルマのニュース（平日毎日更新）
<http://www.burmainfo.org/news/today.php?mode=2>

ビルマ情報ネットワーク
<http://www.burmainfo.org>

お問い合わせ
ビルマ情報ネットワーク 秋元由紀
yuki@burmainfo.org 080-2006-0165